



平和集会に参加してNo.1 (2年~4年感想)

ぼくはつるちゃんみたいに、かぞくをなくしたくないです。あと、けんかしてもすぐ、なかなかおりたいです。(2年)

わたしはつるちゃんの話を書いて、つるちゃんは南のほうへいったからかわいそうでした。つるちゃんたちのおかあさんたちがいなくなって、つるちゃんが1人になったことがかなしそうでした。(2年)

つるちゃんの本を見て、せんそうはやっちゃいけないと思いました。つるちゃんのねーねがしんでかなしかったです。わたしは、まず、けんかをしないで、みんなにやさしくしたいです。大人になってもかぞくにももっとやさしく、明るい大人になりたいです。(2年)

きょうのつるちゃんの話を書いて、せんそうはやっぱこわいと思いました。今わたしにできること、友だちとなかよくすること、まわりの人やじぶんやかぞくをたいせつにすること。これをして大人になって、せんそうをおこさないようにしたいです。(2年)

つるちゃんのはなしを書いて、もっとせんそうはこわいとわかりました。ほんとうにやったら、こわい、かなしいおもいをしちゃうってわかってこわかったです。せんそうをしたひとたちはかわいそうです。これからのじぶんはせんそうをしないようにしたいです。(2年)

つるちゃんの絵本を見て、わたしは、せんそうをやめてへいわをいのろうとおもいました。それから、友だちとたすけ合い友だちとなかよく、けんかをしないで生きていこうとおもいました。(2年)

今日つるちゃんの本を読んでわかったことは、今のあたりまえの生活ができなくなるということです。かぞくなど友だちの目の前でしんでほしくないと思っています。なので、平和がつづいてほしいので、仲まなどを助け合ったりして平和をのばしていきたいです。なぜかという、このあたりまえの生活、ふざけあたり、学校にいけなくなるから、気持ちのいい世界にしていきたいです。(3年)

つるちゃんはその時せんそうにあってこわかったて、言っていました。父はぼくだんにあたってしんでしまった、おばあさんはけがをしてしんでしまった。だから、せんそうって言葉はきえ、平和な世界を作っていくたいと思っでがんばっていくたいです。そして、これからもかぞくを大せつにしていき、友だちとかを大せつに守っていくたいとおもいます。さい後にせんそうって言葉はぜつたいにきえてほしいです。(3年)

今日、平和しゅう会で思っことは、せんそうはおそろしくてこわいと思いました。つるちゃんもがんばってもっとなきたい気持ちもがまんしていたんだらうなあと思っで、ないてしまいました。げつとうの花も歌えました。今日の平和しゅう会は平和の気持ちがたくさんありました。平和せんげんもちゃんと言えました。平和をまもろうとおもいました。(3年)

今日わかったことは、せんそうで人がなくなったりして、せんそうはおそろしいし、おねえちゃんやおにいちゃんがなくなったり、たいへんだと思っました。(3年)

これからは、平わなせかいになっでほしいです。けんかしてもすぐになかなかおりたいして、平わって、すてきなんだな一と思っます。ずーつと平わなせかいになっでほしいです。(3年)

つるちゃんが大切な人とかいろいろなくなっで、とても辛かったと思っました。ぼくのひいおばあさんは体験したことがあるので、ぼくだったらこわかったと思っていたはずです。戦そうはとてもこわいので、ずつと平和でやさしい生活にしたいと思っます。人は大切なので助け合ったら必ずいいことがおこるのです。(4年)

つるちゃんの話を書いて感じたことは、とつぜんぼくだんが落ちてきたり、目の前で家族や大切な人がなくなったりして、あらためてせんそうはこわいなと思っました。かくれる場所をさがしまわって、ずつとあるいていたりして、せんそうのつらさがよくわかりました。1年生の平和宣言で思っことは、家族や友達を思いやったり、仲よくしていくのは大事だと思っました。校長先生の話を聞いて、今まで当たり前だったことが当たり前じゃなくなることは、つらくてかなしいことなんだと思っました。(4年)

わたしは平和があたりまえだと思っていたが、そうでないことに今日、気づきました。わたしにできることは、けんかをしないことや相手を思いやることだと思っます。戦争についても、もっと知しきをひろげたいです。(4年)

平和集会でせんそうは人のいのちをなくすということを知り、おそろしいことだと思っました。だから、ぼうげんやケンカはしません。(4年)

今日みんなの宣言を聞いて、戦そうが起きないように私にできることは、いじめをしない、考えて行動し、友達と協力して助け合い、平和にして行けたらいいと思っます。ちよつとのケンカでも戦そうにちかづくので、私はケンカ、いじめ人がいやがることをかぎりなくなくしていきます。(4年)



裏面にもあります。

平和集会に参加してNo.2 (5年～6年感想)

戦そうは心がくずれるということがつるちゃんの本をみてわかりました。今日平和せんげんをしてわかったことは、戦そうは1人にもなるし、食べ物がなくなるということがわかりました。(5年)

今自分に出来ることを考えて、戦争がおこらないように、たたいたり、もんくを言うのをやめて、毎日毎日が平和に過ごせるようにしたいと思いました。戦争はおそろしい事だから体験したくないと思いました。(5年)

平和集会のつるちゃんの話聞いて、これが実際にあったと考えるとこわくなります。ぼくだったらなにもできないと思います。みんなでも考えた平和宣言をちょっとでもできるように少しずつがんばりたいです。戦争は体験していないけど、体験した人たちから聞いて下の世代の人たちに伝えていきたいです。戦争は家族や命を失い、みんなが笑顔をなくします。(5年)

本当に戦争はだめだなと思いました。つるちゃんが片目を閉じているのは、こわくて見れなかったからだそうです。つるちゃんが一人になった時、とても悲しい気持ちが伝わってきました。6月23日はとても大切だと思いました。つるちゃんの本を読んでもっと戦争のことを知りたかったです。(5年)

戦争は人が死んで人の命がなくなって、ほかのひとが悲しむから戦争はしてはいけない。戦争がなぜダメなのかを考えて、平和の世界で生きていきたい。つるちゃんの話は、自分がいがい家族が死んで、家ぞくがいなくなったからかなしいと思うからこんな目にはあいたくないと思った。(5年)

つるちゃんは家ぞくがいなくなっただけかわいそうだった。戦そうは人の命をかんたんにおとしているし、戦そうはかなしくて、つらくて、おそろしいとわかった。(5年)

つるちゃんという話で、目の前で家ぞくやしんせきが死んでいくのがとてもつらいと思いました。メッセージでりょう目で見みれないほどのけしきって一言がとてもつらいんだなあと思いました。自分でせんそうを起こさないように、ケンカをしないように心がけていきたいと思いました。(5年)

ぼくは今日の平和集会をとおして、これからどうやったら戦争をなくしていけるかをちゃんと考えようと思いました。(5年)

平和集会をとおして、平和なのは当たり前じゃなくて、1人1人が支えていることがわかりました。78年前は今あたり前のことがあたり前にできなくて、家ぞくが死んでしまったり、じゅうぶんにごはんが食べられないことがあって、今じゃありえないぼくだんが落ちてきたりして命を落としてしまうことがあることがわかりました。(6年)

ひとりぼっちのつるちゃんのつらい悲しい思いはほんだけの思いだったのか、想像ができないほど、つらい話だなと思いました。こんな思いを二度とさせないために、まず、私達のできることにしようと思いました。ケンカはしないなど、おたがい理解しあうなどの小さいことからどんどんやっていこうと思いました。私達は、戦争を体験していないからこそ、これから戦争について詳しく学んで、後の世代に伝えていくことを今生きている私達がしたいといけなと思いました。(6年)

今日の戦争の絵本で、つるちゃんはまだ2年生なのに戦争を体験していて、こわかったらうなと思いました。アブチラガマを見学した時、あんなせま苦しいところで過ごさないといけなと殺されると思うと、さらにこわさが増しました。戦争は人が人を殺すということを知りました。今後も戦争について、自分から学んで、戦争のおそろしさをみんなに伝えていきたいなと思いました。(6年)

戦争はどれだけ悲惨なのかを知った。戦争が起こるとあたり前のことが一変し、家族、関係ない人々までもが4人に1人もなくなってしまう。戦争の悲惨さは、戦争を体験していないぼくたちが語りついでいかなければならない。「国際理解・国際親善」を習った今、国と国との争いを止めることができるかもしれない。たとえ一人で止められなくてもみんなが戦争の悲惨さを知り、一人一人が戦争のことを知ったら、戦争を止めることができるかもしれない。それを語るのが戦争を学び、戦争を知った、ぼくたちにできることだと思います。だから次の世代に伝えていきます。(6年)

平和集会だけでなく、アブチラガマ見学でも実際に見たり、体験したことで当時の沖縄戦がどれだけ悲さんなことだったのか、おそろしいことだったのかがよくわかりました。私たちは実際に戦争をたいけんしたわけではないけれど、今、世界のどこかで沖縄戦のようなできごとが起きていて、戦争のせいで苦しんだり、悲しんだりしている人たちがいるということも忘れてはいけないなと思いました。私の住む沖縄で、本当にあった戦争、「沖縄戦」のことを、これからの世代にも未来につなげていってほしいと思いました。これからも「戦争と平和」について考えていき、伝えていきたいです。(6年)

私達6年生は平和集会だけでなく「生きる」というドラマを見たり、アブチラガマに実際に入って体験したりしてきました。アブチラガマでは足場は悪いし暗いし、いろんな音もすぐひびきわたるのでとてもこわい所でした。でも戦争の時はこんな暗くてこわい所でもにげてくる場所、少しでも安心できる場所として使われたんだと思うと想像できないくらい戦争はおそろしい、こわいことだったんだとわかりました。(6年)

